

## 日本労働年鑑 第63集 1993年版

The Labour Year Book of Japan 1993

## 特集 現代日本の女性労働

## はじめに

一九八〇年代は、現代日本の女性労働にとって大きな転換期となった。注目すべきことの第一は、女性の雇用者が家事専業者を大きく上回り、雇用労働者としての就業が、女性個人としても世帯としても一般的・代表的であるような社会へと、日本の社会が転換したことである。もう一つの変化は、男女雇用機会均等法の成立を契機に、雇用における男女平等の実現が社会的な課題として追求されるようになったことである。そしてこれらの変化を促進したのは、「バブル景気」と呼ばれた日本経済の好況である。以下、均等法後の八〇年代後半に焦点をあてながら、今日の女性労働の現状と課題をサーベイしてみよう。

日本労働年鑑 第63集

発行 1993年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2006年11月17日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第63集【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)